



池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」 文責：校長

たしや **たいわ** きょうどう
他者との対話と協働で

い **い** **か** **げん** (**良** **い** **加** **減**) **を** **探** **る**

そのために **「見方・考え方」** **を** **鍛** **え** **る**

「いいかげん」

「いいかげんな人だ」などと

「いいかげん」を「無責任な」「中途半端」などと
肯定的な意味で用いることがある。

本来は「良い加減」と書き、「ちよつどよい状態」と
肯定的な意味をもっている。

コロナ感染が広がる以前は、私たちの生活がこのよう
に一変するとは思っていなかった。「コロナ禍で私たち
は、様々な問題に直面している。これからもである。

このようにこれまで経験したことのない問題に対し
て、ただ一つ正解を求めることは難しい。

私たちにとっての正解は、他者と対話し協働しながら
「い(良)いかげん(加減)」を探り出すことである。

そのために生きる力に直結する「ものの見方・考え
方」を身に付ける努力が欠かせない。

新型コロナウイルス^{かんせん}感染が広がって、私たちの生活が変わってきたように、これからは予測^{よそく}が困難^{こんなん}な時代だと言われています。私たちも子供たちもそのような時代を生きていきます。

学校では、教科の授業や様々な活動を通して、

「見方・考え方（ものごとを捉^{とら}える視^{してん}点や考え方）」を働かせながら、

- 1 知識^{ちしき}を関連^{かんれん}付けて深く理解^{りかい}したり、
- 2 情報^{じょうほう}を精査^{せいさ}して考え^{けいせい}を形成したり、
- 3 問題^{かいかつさく}を見いだして解決策^{かいけつさく}を考えたり、
- 4 思いや考え^{もと}を基^{そうそう}に想像^{そうそう}したりする

など過程^{かてい}を重視^{じゅうし}した学習を進めています。

つまり、1～4を意識しながら学習を進めていくことで、

「見方・考え方」が鍛えられるということです。

前号で実力テストのことやその活かし方についてお話しました。その各教科の実力テストの中にも「文章やグラフから読みとったことを指定された文言^{もんごん}を遣^{つか}いながら、考察^{こうさつ}する」といった問題^{しゅつだい}が出題されています。まさに「見方・考え方」が試されているということになります。

ですから、日ごろから知識^{しゅうとく}をしっかりと習得^{しゅうとく}しながら、それを活かして考え、課題^いに対して自分の言葉で考察できる練習をする必要があるのです。

「見方・考え方」は、これからの社会^ぬを生きる力、自分で生き抜いていく力^{ちよっけつ}に直結^{ちよっけつ}しています。繰り返しになりますが、

- どんな問題^{もんだい}が解けてどんな問題^とが解けないのか？
- 自分は日頃からどんな問題を苦手としているのか？
- 自分にはどんな課題^{かんだい}があるのか？

先生方が指摘^{しゆつてい}してくださっているはず！

自分で考えたこと、先生方から指摘^{しゆつてい}があったことを言葉や行動にできるかが成長の秘訣^{ひけつ}です！

をしっかりと自覚して、授業や家庭学習、部活動等、普段の生活の中での取組方（言葉や行動、活動）をアップデートしていきましょう。



